

地域のための地方創生ゼロカーボン 実務担当マニュアル（事業概要）

- 「地域脱炭素ロードマップ」において、「**地域脱炭素は地域の成長戦略であり、地域が主役になって、再エネ等の地域資源を最大限活用して経済を循環させ、地域課題を同時解決し、地方創生に貢献できるもの**」とされており、脱炭素施策は地方創生の重要な手法です。
- こうした脱炭素の取組によって地域課題の解決にアプローチする事業を「**地方創生ゼロカーボン事業**」として様々な事例やノウハウを整理しました。

地方創生ゼロカーボン事業

地域が直面する様々な課題

解決したい地域課題の例

雇用創出・ 稼ぐ地域づくり

- 新たな産業を地域に生み出したい
- 地域の雇用や仕事を増やしたい
- 荒れた農地や森林を有効活用したい

地方への 人の流れ

- まちの交通網を維持したい
- 地域の魅力を高めて移住者や観光客をもっと呼び込みたい
- 若者が地元で就職するまちにしたい

安全で 暮らしやすい

- 災害に強いまちづくりをしたい
- 物流の人手不足問題に対処したい
- SDGsをもっと地域に浸透させたい

脱炭素の取組
によって
地域課題の
解決に
アプローチ

脱炭素の取組の例

太陽光発電設備の導入

公共交通を軸としたまちづくり

営農型太陽光発電

エリア単位の脱炭素化

住宅の省エネ性能向上

地域の未利用資源の最大活用

EVカーシェアリング

環境にやさしい消費拡大

地方創生への成果

期待される地方創生への効果

地域経済の活性化・
新たな雇用の創出

住民の暮らしの
快適さ・利便性の向上

地域の資源や資金が循環する
新たな経済システムの構築

防災・減災など
地域のレジリエンス向上



具体的に地域が直面していた課題の事例

自治体名	地域課題	脱炭素の取組と地域への効果
北海道 鹿追町	農業と観光を基幹産業としており、グリーンツーリズムの推進によって観光客が増加する中、市街地と牧場の距離が近いため、市街地を中心に 乳牛ふん尿の悪臭 が問題となり、適正処理を望む声が高まった。	家畜のふん尿を発酵させてバイオガスを製造・収集する バイオガスプラントを建設 、発酵処理を通じた 電気・熱エネルギーの生成 に加え、 悪臭や景観課題の解決 や、バイオガスプラントや余剰熱を活用した エネルギー事業に伴う新たな雇用の創出 などを実現。
岩手県 陸前高田市	東日本大震災からの復興に伴って、災害公営住宅から 街の中心部への移動手段が不足 していた。入居者の高齢化も進行し、日常生活の 買い物の困難 や 地域コミュニティからの孤立 といった課題が懸念された。	グリーンスローモビリティ（電気バス）を導入 し、中心部への移動手段を確保。地域内の 新たな人流やコミュニティスペースを創出 するとともに、 CO₂排出削減 も同時に実現。
鳥取県 鳥取市	社会情勢の変化に伴う市内の 雇用情勢の悪化 や、 エネルギー収支の大幅な赤字 に直面しており、新たな産業の創出による経済の活性化やエネルギーの安定供給に取り組む必要があった。	鳥取市と鳥取ガス株式会社の共同出資で 地域新電力会社を設立 し、地域電源開発や電力の売買を実施。新会社設立に伴う 雇用の創出 とともに、 地域外へ流出していた電気代を地域内に取り戻し、新たな地域内経済循環を実現 。



鹿追町
バイオガスプラント



陸前高田市
グリーンスローモビリティ

地域のための地方創生ゼロカーボン 実務担当マニュアル（マニュアルの構成）

- 地域のための地方創生ゼロカーボン実務担当マニュアルは、**地方創生ゼロカーボンに取り組む自治体職員を対象に、事業を進めるに当たっての作業やポイントを整理**しています。
- マニュアルでは、プロセスごとに情報を整理しており、これまでの調査で得られた**自治体事例を併せて紹介**しております。

地方創生ゼロカーボン 事業実施フロー

事業理解 第1章

地域の現状把握

第3章

解決すべき 地域課題の抽出

脱炭素施策の 方向性の検討

第4章

事業の検討・ 実行

第5章

実施体制の構築

第2章

実務担当マニュアル 構成

第1章 地方創生ゼロカーボン事業とは（p.3～）

第2章 実行体制の構築（p.6～）

- プロジェクトチームの設置や外部人材の活用などを行い、事業の推進体制を構築する。
- 関係者の役割と責任、意思決定プロセス等を明確化し、効率的な連携手段も検討する。
- 住民説明会やワークショップの開催などによって、地域の理解と参加を促進する。

第3章 地域の現状を把握する（p.13～）

- 自治体の基礎データや総合計画を確認し、地域課題やその現状などを把握する。
- 地域経済の循環状況（対外エネルギー支払額）、CO₂排出量、地域の再エネポテンシャルを把握し、地方創生と地域脱炭素に向けた情報を把握する。

第4章 解決すべき地域課題の抽出と脱炭素施策の方向性の検討（p.18～）

- 地方創生上の課題を洗い出し、脱炭素施策の方向性を検討する。
- 地域課題の抽出に当たっては、ワークショップや地域経済循環分析などを行い、関係部局や地域の事業者・住民をできるだけ巻き込んで実施する。

第5章 事業を検討し実行する（p.23～）

- 事務事業/区域施策、再エネ/省エネ、対象部門（産業部門、家庭部門、運輸部門等）などの切り口も参考に、地域でどのような事業に取り組むことができるかを検討する。
- 事業内容の検討に加えて、目標・指標の設定、CO₂排出削減量の試算、事業期間の検討、事業費の検討を行うとともに、随時、進捗のチェックと改善を行いながら、事業を実行する。

別冊 事例の紹介（別冊p.2～）等

- 既に地方創生ゼロカーボン事業に取り組んでいる自治体の調査結果や、これから事業に取り組もうとする自治体への伴走支援の結果を事例集として整理しており、直面している地域課題、それに対するアプローチの内容、具体的なプロセスを記載している。
- その他、事業を進める上で押さえるべき心構えとして、成功の5か条・失敗必至の10か条を記載している。

各章の参考事例・参考ツール

北海道美幌町【p.7】

- ・ 関係部署によるプロジェクトチームを組成し、全庁一体となって事業を推進



地域経済循環分析【p.14】

- ・ 環境省の自動作成ツールを基に、地域の対外エネルギー支払額（流出額）を把握



熊本県八代市【p.19】

- ・ 部局横断のワークショップを開催し、地域課題や施策アイデアを議論



福岡県みやま市【p.24】

- ・ 事業の課題や実現可能性を精査し、ロードマップとして事業を整理



秋田県大湯村

- ・ 電力・バイオマス事業に取り組む経緯やプロセスを調査し、記載

